宮澤賢治が普代村に来ていた

「賢治作品と普代村」と題して、村と賢治の関わりを紹介する講演会は、花巻農業高校教頭の阿部彌之さん（宮澤賢治学会理事）を招いて１月16日、村教育委員会と「リアスの海から賢治と語る会・普代会」が主催し、自然休養村管理センターを会場に行われました。

講演会には、約40人が参加。阿部さんは、賢治が大正14年１月５日に花巻市を出発、村を含む北三陸を旅行した際に残した詩「異途への出発」などを紹介＝**写真**＝、「賢治が厳寒にこの地を歩いたという事実を知ること、そしてこの時期村はどんな様子だったのか明らかにすることは、今後の地域の発展を考えるうえで重要」と阿部さんは講演を終えました。

上区で畳み業のお手伝いをしている澤口ヨシさん（60歳）は「賢治の詩は好きで読んでいますが普代村を通ったという事実は知りませんでした。義経伝説のように観光につながるといいですね」と、期待を込めて話してくれました。

生命誕生の神秘さ体験

黒崎小学校（佐々木一夫校長、児童十八人）と鳥茂渡小学校（菅原伊保校長、児童十二人）は十二月六日、黒崎小学校で「生命誕生の不思議さ」と題して採卵授精実習を行いました。

普代村漁協栽培漁業係長の下道勇次さんの手ほどきを受けながら、真剣なまなざしでゆっくり卵を取り出した後、二十から三十秒以内にすばやく精子をかけて＝**写真**＝優しくかき混ぜ授精させます。

子どもたちは、サケの生命誕生の神秘さを通し「命の貴さ」を学習。この体験は、昭和五十七年から毎年この時期に行われています。

小規模校の両校が毎年一緒に体験学習を行う複式交流会で実施されました。

授精卵は一月下旬にふ化する見込みで、五月に普代川に放流したり淡水で飼育していく予定です。

無火災の継続誓い新た

一月五日、村消防団（道合政喜団長）の出初式が、役場前広場を主会場に行われました。消防団員九十人、婦人消防協力隊員五十人が参加。今年一年の無火災を祈りながら、消防団の団結を示しました（**写真上**）。

総監の深渡宏村長は「村民の生命、財産を守る使命を一層確認し合い、日々精進していただきたい」と訓示。服装や機械器具の点検のあと、団員、婦人消防協力隊員、久慈消防署普代分署員らと消防車両十一台が村の中心街を分列行進し、村民に火災予防を訴え、消防団の意気を示しました。

村の中心街を分列行進する団員ら